

医学研究院の豊嶋崇徳教授が第 74 回保健文化賞を受賞

【賞の概要】

昭和 25 年に創設された、保健衛生分野の課題に取り組む団体・個人を顕彰する賞で、第一生命保険株式会社が主催し、厚生労働省、朝日新聞厚生文化事業団、NHK 厚生文化事業団が後援し、実施しています。保健衛生分野では最も歴史と権威ある賞です。

【受賞内容】

研究課題 新型コロナウイルスの唾液検査法の確立
受 賞 者 豊嶋崇徳（北海道大学大学院医学研究院 教授）
授 賞 式 2022 年 12 月 13 日（火）17 時～ 明治記念館にて開催
2022 年 12 月 14 日（水）15 時 30 分～ 皇居・御所にて天皇皇后両陛下拝謁



【受賞理由】

唾液中の新型コロナウイルスの存在に気づき、その後、産官民一体で極めて短期間のうちに唾液検査法を確立し、コロナ対策を大きく進歩させ、唾液検査の普及に貢献しました。

【受賞者のコメント】

歴史と権威ある第 74 回保健文化賞が授与され、また受賞者代表挨拶に選ばれましたことは、この上ない栄誉であり、大きな喜びであります。また、加藤厚生労働大臣様を始め関係の皆様方から身に余るご祝辞をいただき、皇居にて天皇・皇后両陛下のご拝謁を賜りましたこと、この上ない名誉であります。

私は、新型コロナウイルス感染症の唾液検査を確立しました。新型コロナウイルス感染症の検査は従来、鼻の奥に綿棒を差し込んでいました。しかし感染の危険のため、検査人員の確保ができず、PCR 検査が増えない一因でした。2020 年 4 月に、北海道大学病院を受診した最初の新型コロナウイルス感染症の患者さんが、誤って唾液を提出したところ、唾液が PCR 陽性となったことから、私は、なぜ会話やカラオケでうつるのか、味覚障害が起きるのかといった新型コロナウイルス感染症の特徴的な症状を理解することができました。私は、検尿のように自分で唾液をとって提出してもらえば、痛みも感染リスクもなく簡単に検査できると考えました。そして、一刻も早く医療崩壊を食い止めたいと、不眠不休で研究に打ち込みました。その結果、唾液中にウイルスがいるという仮説を証明することができ、国によるスピード認可に繋がりました。我が国のコロナ対策を大きく進展させ、「ウィズ・コロナ」時代の生活を可能とする「ゲーム・チェンジャー」となり、大変嬉しく、同時にやっと肩の荷が下り安堵しました。

思い返しますれば、たった一人の患者さんからの小さな気づきが世の中を動かすに至り、新型コロナ

新型コロナウイルス感染症の危機を乗り越える大きな貢献ができたことを誇りに思います。そして栄誉ある賞を贈呈いただきました皆様の期待に応えるよう、これからも努力していきます。



第74回保健文化賞贈呈式にて代表挨拶する豊嶋教授

お問い合わせ先

北海道大学大学院医学研究院 教授 豊嶋崇徳（てしまたかのり）

T E L 011-706-7214 F A X 011-706-7823 メール teshima@med.hokudai.ac.jp

U R L <https://www.hokudai-hematology.jp/>

配信元

北海道大学社会共創部広報課（〒060-0808 札幌市北区北8条西5丁目）

T E L 011-706-2610 F A X 011-706-2092 メール jp-press@general.hokudai.ac.jp